

「より良い」を目指すこと

使用者委員 竹之内日出晴

前人未到の50-50など数々の偉業を成し遂げているドジャース・大谷翔平選手の魅力は、"圧倒的な実力"、"謙虚な人柄"、"チームメイトに対する思いやり"など様々挙げられるが、それらの魅力はすべて、『より良いプレー』をするために『自分も他人も尊重する』大谷選手の姿勢から感じ取れるものではないかと思う。

例えば自分に必要なトレーニングは何か考え練習に取り入れたり、明日に備えるため試合が終ればすぐに帰宅したり、毎日しっかり睡眠・食事を摂ったりなど、自分自身のメンテナンスを怠らないのはもちろん、たとえ良い試合が出来ない日があったとしても常に礼儀正しく、周囲に対する敬意を忘れないことで、数字だけでなく精神面でもチームに大きく貢献し、今日までの継続的かつ揺るぎない成果に繋げている。

『自分も他人も尊重する』のは人として当然のことだが、『より良い』ものを目指し変化が求められる過程では、それがなかなか難しい。答えが見えない状況が続き、焦りから視野が狭くなってしまったり、目的を見失って小さなことにこだわってしまったりする。そういうときは大抵、あまり良い成果は得られない。自分や他人を蔑ろにして得る成果は脆く、次に繋がらないからだ。だから『より良い』成果を出したいと思う時こそ、大谷選手のように『自分と他人どちらも尊重』し、状況の変化を冷静に把握したり、臨機応変な対応をしたり、双方のちょうど良いバランスの中から答えを探していこうとする姿勢が大切なのではないだろうか。

また、この姿勢は最近よく耳にする「サステナビリティ(持続可能性)」にも通じるものがある。人も企業もよいことをして利益を得ようという考え方が広まりつつある今、一人ひとりが、自分自身も、自分以外の誰かのことも尊重すれば、バランスの取れた『より良い』社会を目指すことだってできるはずだ。